

令和7年度 北九州市総合教育会議 [協議1]

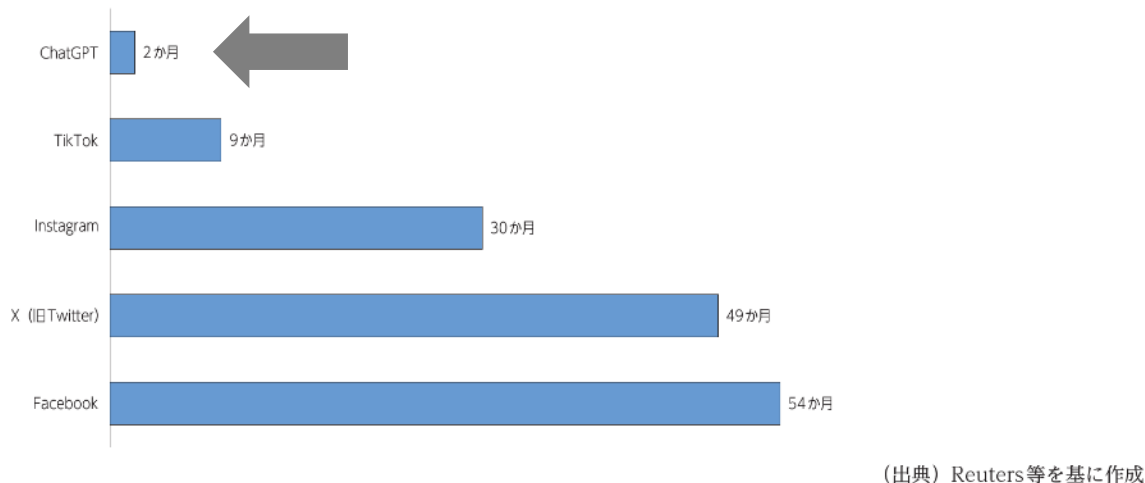
# 新たな学びの方向性について

令和7年12月16日  
学校教育部

- 社会の在り方を根底から変え得る革新的な技術の登場や、ライフコースから日々の消費行動に至るまで、あらゆる価値観の多様化が急速に進む中、今後、より予測が困難で、決まった正解のない時代の到来が見込まれる。
- このような時代を生きていくこどもたちは、生涯にわたり学び続け、自らの個性と可能性を存分に発揮するとともに、自ら「問い」を立て、多様な他者と協働しながら解決策を見出していくことが必要となる。

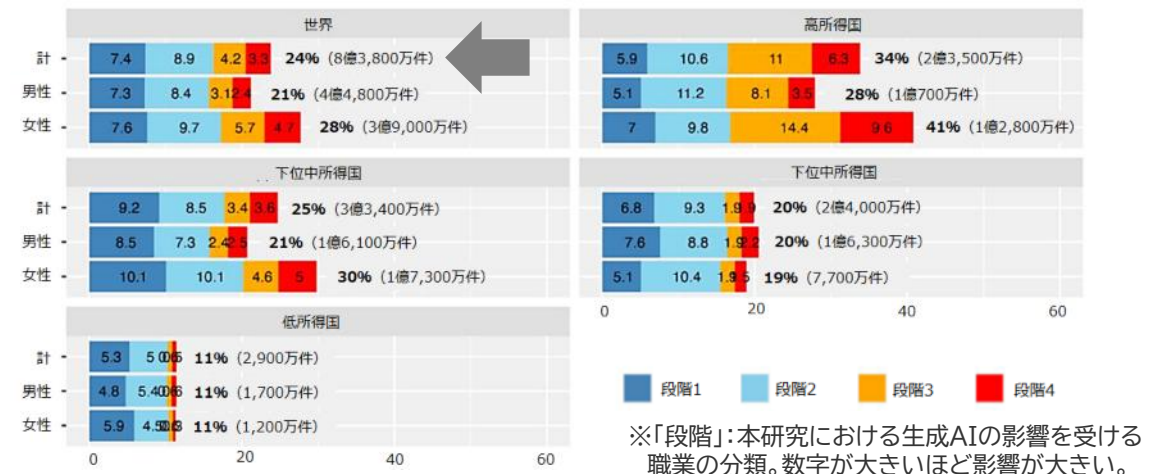
- ◆ 「革新的な技術」の一例として、生成AIがある。代表的な生成AIサービスであるChatGPTは、公開からわずか5日でユーザー数100万人に達し、2か月後には同1億人を突破するなど、驚異的なスピードで拡大している。
- ◆ 国際労働機関(ILO)は、生成AIが雇用に与える影響について分析したレポートにおいて、世界の総雇用の24%が、生成AIの影響を受けると推計している。

各種サービスにおける1億ユーザー達成までにかかった期間



出典)総務省「令和6年版 情報通信白書」より

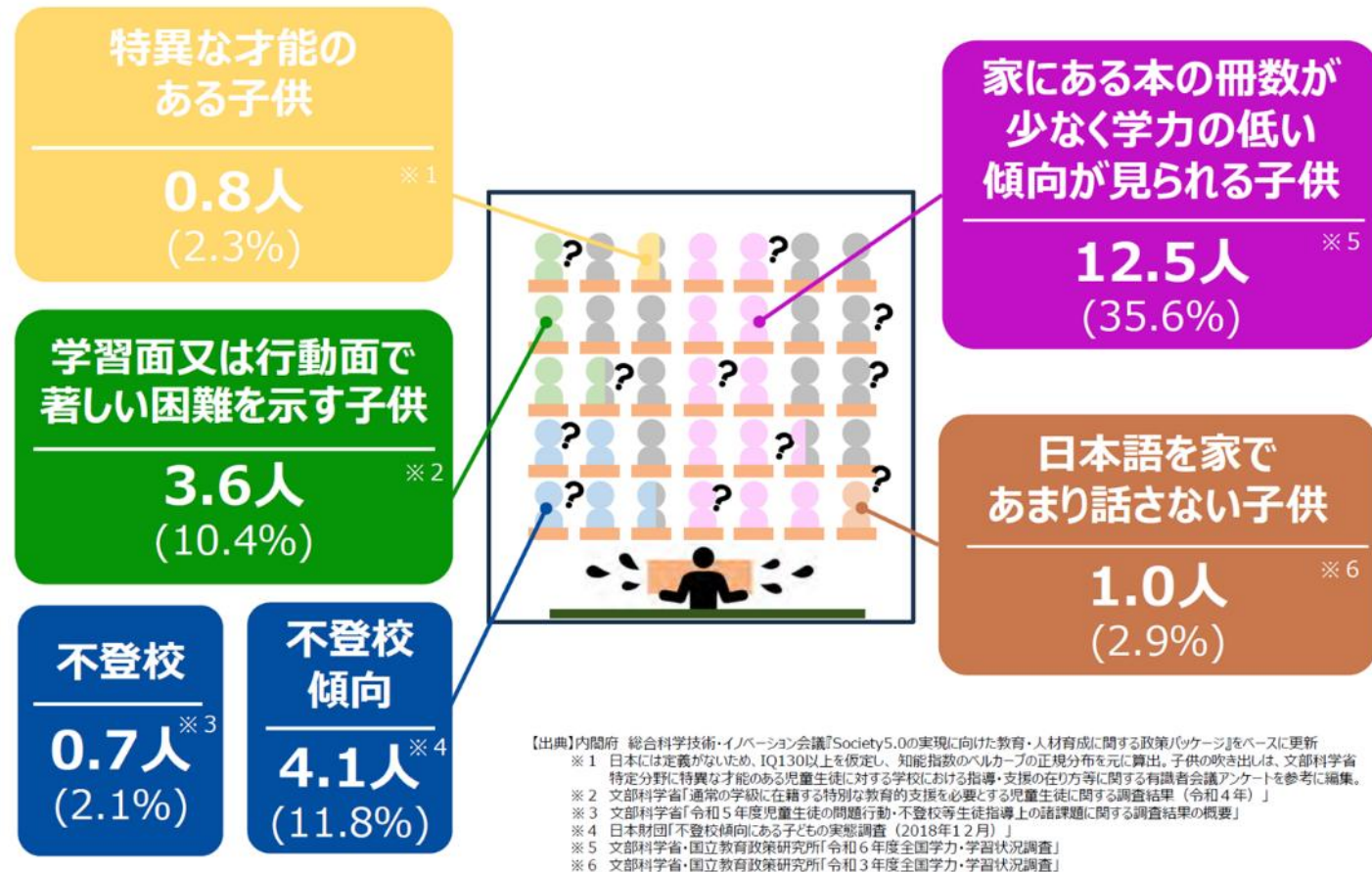
生成AIによって影響を受ける雇用の割合と件数



出典)独立行政法人労働政策研究・研修機構「世界の雇用の4分の1が生成AIに代替される可能性—ILO研究ブリーフ」

## 小学校35人学級における多様性

- 不登校児童生徒、特別支援教育の対象となる児童生徒、外国人児童生徒や特異な才能を有する児童生徒等、支援を要するこどもの数は増加傾向であり、一つの教室にいるこどもたちの多様性は増している。
- こうした多様なこどもたちが、一人ひとりに合った学びを通じ、それぞれの得意や才能を伸ばしていくとともに、互いに異なる個性や特性を理解・尊重し、つながり学び合う姿勢を涵養していくことが重要である。

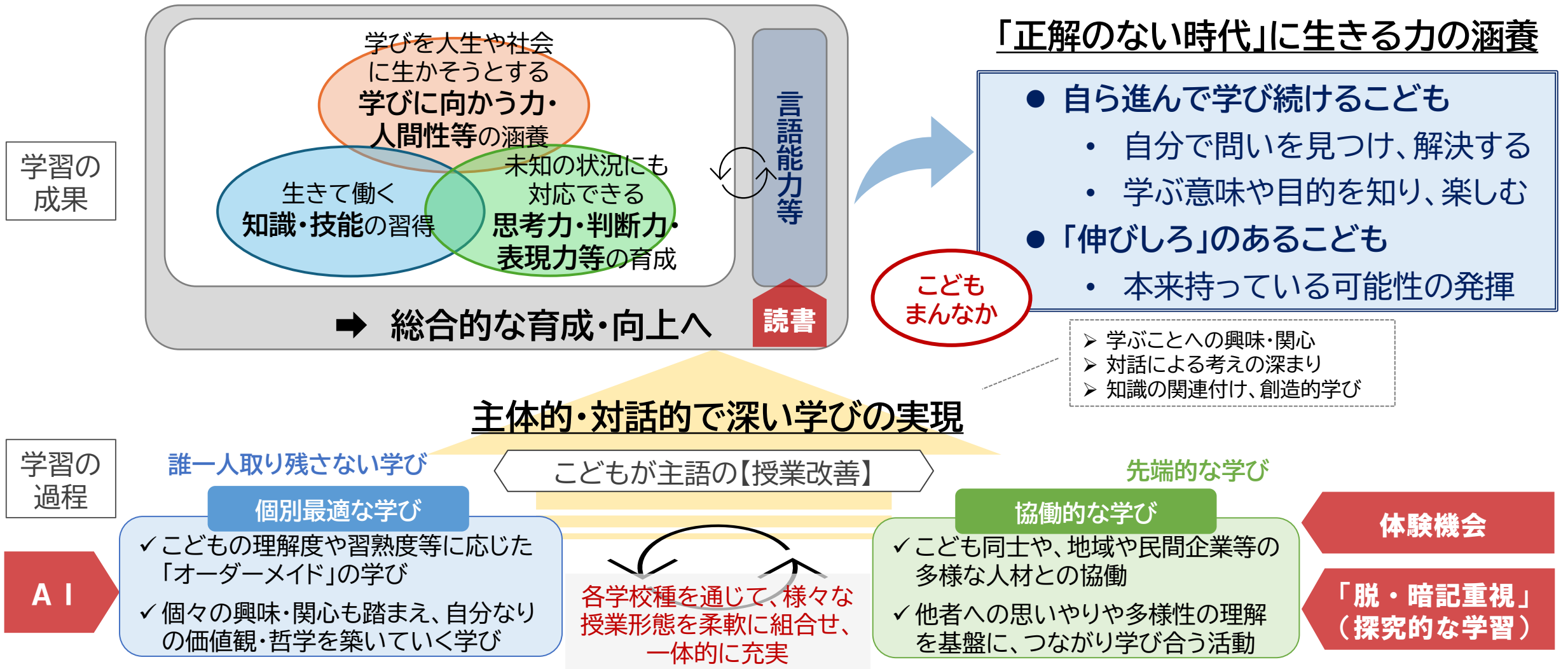


1人1人を大切にする学力向上(資質・能力の育成)を実現する学びの改革

3つの  
アプローチ

- ①「AI＋読書」の強化
- ②「体験機会」の強化
- ③「脱・暗記重視」

**Kitakyushu  
Action!**  
動かせ、未来。北九州市





一  
斉

■「対話的な学び」を実現するため、  
こどもたちがアウトプットする  
手段をより充実できないか。

■個別・協働・一斉といった多様な学習活動  
を柔軟に(場合によっては同時に)展開  
できるよう、余裕あるスペースを確保し、  
レイアウト転換や移動を容易にできないか。

教室

協  
働

■誰もがリラックスできる場でありながら、  
異学年間など多様な交流の促進にもつな  
がるよう、校舎のどこからでもアクセスが  
容易な場所に配置できないか。

■様々な知識を関連付け、教科横断  
的で探究的な学びに取り組むこと  
ができるよう、多様な情報資源に  
触れられる場にできないか。

個  
別

学校図書館

令和7年度全国学力・学習状況調査結果の分析

- 小学校・中学校ともに、正答数・正答率の本市平均は全国平均を下回る結果となっている。
- 平成27年度調査以降の結果を経年比較すると、全国平均を上回る又はその近傍値となる調査年度もあったものの、ここ数年は、全国平均からやや乖離した結果も見られる。
- また、第1四分位のこどもの正答数は全国と同じだが、第2・第3四分位のこどもの正答数は全国に届かない。
- さらに、特に北九州市の児童生徒は、「目的に応じて文章を読み、必要な情報を捉える力」(読解力)や、「根拠を明確にして説明する力」(説明する力)に特に課題があると考えられる。

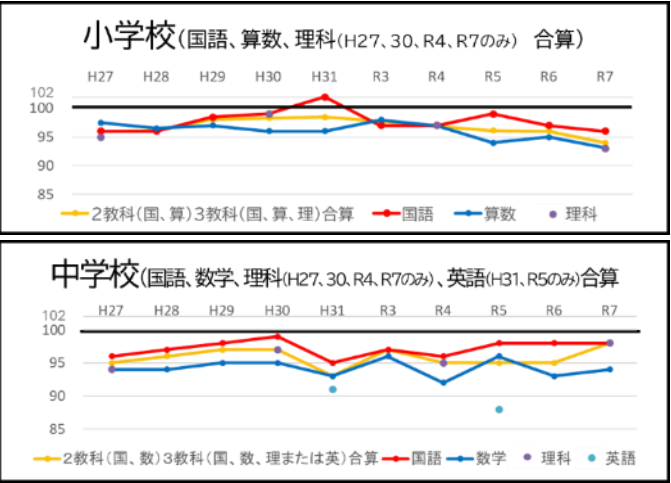
◆令和7年度全国学力・学習状況調査結果(概況)

令和7年度	小学校 国語			小学校 算数			小学校 理科		
	正答数	正答率	割合	正答数	正答率	割合	正答数	正答率	割合
本市平均	8.9 / 14 問	64%	96%	8.6 / 16 問	54%	93%	9.1 / 17 問	53%	93%
全国平均	9.4 / 14 問	67%		9.3 / 16 問	58%		9.7 / 17 問	57%	

令和7年度	中学校 国語			中学校 数学			中学校 理科	
	正答数	正答率	割合	正答数	正答率	割合	平均IRTスコア	割合
本市平均	7.4 / 14 問	53%	98%	6.7 / 15 問	45%	94%	492	98%
全国平均	7.6 / 14 問	54%		7.2 / 15 問	48%		503	

※割合…全国平均正答率に対する本市の平均正答率の割合をいう。

◆全国平均正答率に対する割合(H27～R7)



◆令和7年度全国学力・学習状況調査結果(四分位数・小学校)

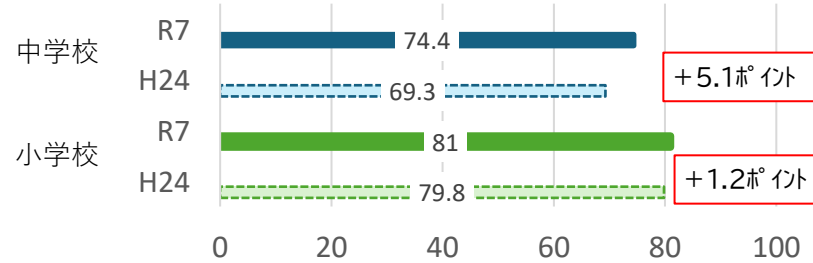
		第1四分位 (下から25%) の正答数	第2四分位 (中央値) の正答数	第3四分位 (下から75%) の正答数
国語	全国	7問	10問	12問
	北九州市	7問	9問	11問
算数	全国	6問	10問	13問
	北九州市	6問	9問	12問

◆令和7年度全国学力・学習状況調査結果【国語】正答率(抜粋)

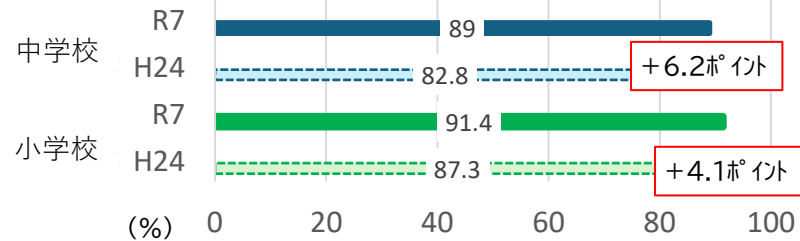
出題の趣旨	児童【小6】			生徒【中3】		
	北九州市 (A)	全国 (B)	A-B	北九州市 (A)	全国 (B)	A-B
文章を読む目的を明確にして必要な情報を捉える	52.5%	56.3%	-3.8 ポイント	15.6%	17.1%	-1.5 ポイント
伝えたいことの根拠を明確にして書くこと	56.9%	61.3%	-4.4 ポイント	31.0%	31.0%	±0

国語

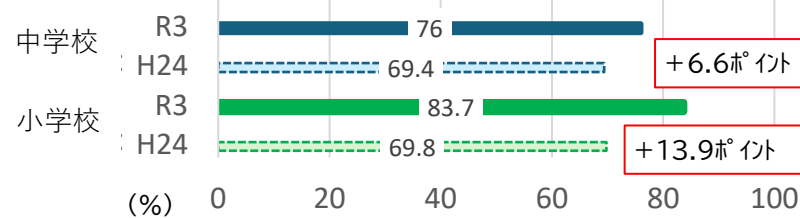
国語の授業の内容はよく分かりますか



国語の授業で学習したことは、将来社会に出たときに役に立つと思いますか



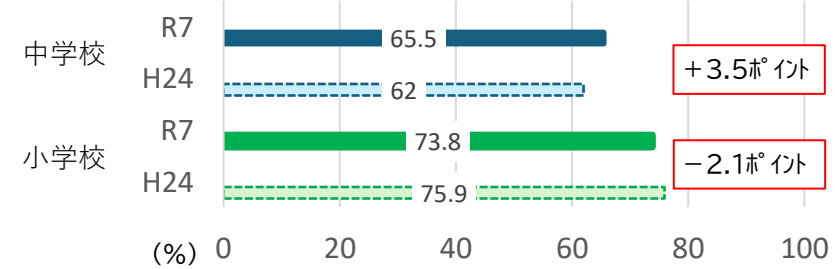
国語の文章を書く問題について、最後まで書こうと努力しましたか



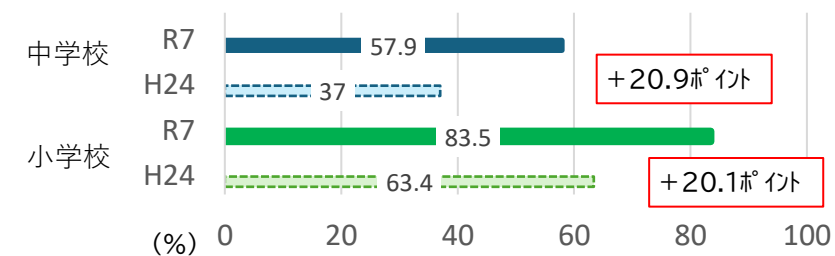
※R7に質問がなかったため、R3を参照

算数・数学

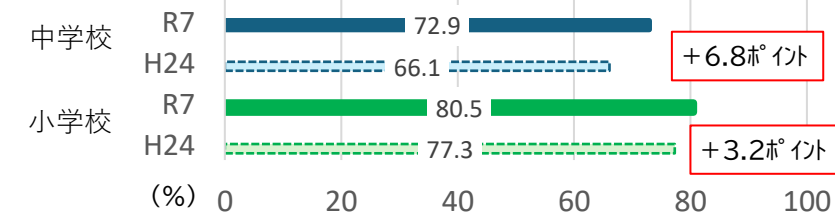
算数・数学の授業の内容はよく分かりますか



算数・数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか



算数・数学の問題が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか



# 令和7年度全国学力・学習状況調査 児童生徒質問調査結果より

		北九州市	(参考)全国		
主体的	学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間※、勉強をしますか	児童【小6】	25.0%	18.4%	
	－「30 分より少ない」又は「全くしない」答えたこどもの割合	生徒【中3】	29.4%	18.9%	
	先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか	児童【小6】	87.4%	87.3%	
		生徒【中3】	85.1%	83.7%	
	分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか	児童【小6】	78.4%	81.8%	
		生徒【中3】	69.8%	77.6%	
	1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	児童【小6】	78.4%	80.3%	
		生徒【中3】	72.2%	77.8%	
	対話的	学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか	児童【小6】	83.3%	84.9%
			生徒【中3】	81.6%	84.8%
個別最適	1、2年生のときに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか	児童【小6】	81.6%	83.4%	
		生徒【中3】	77.2%	79.3%	
協働的	授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか	児童【小6】	90.5%	91.9%	
		生徒【中3】	90.2%	91.9%	

※学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む。



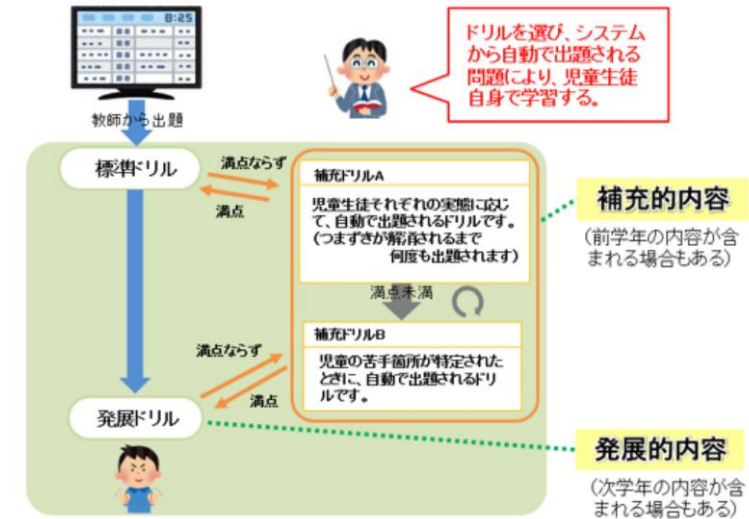
## AI利活用推進の取組

## AI型学習アプリ(特長)

R8予算要求中

- **個別最適化された問題を出題**  
学習状況をAIが解析し、一人ひとりに合わせた問題を提示。苦手の克服や得意分野の伸長が効果的に進む。
- **即時フィードバックと学習データの自動収集等**  
解答後、すぐに正誤や解説等を確認でき、学習効果が高まる。また、こどもの解答時間や正答率等のデータも、即時に収集・分析され教師の指導や負担軽減に資する。
- **場所を問わずに学習できる利便性の高さ**  
一人一台端末に導入して利用。オフラインで利用可能なものであれば、場所を選ばず学習できる。

## ◆AI型学習アプリの機能・活用のイメージ(※一例)



出典)文部科学省 ホームページより  
<https://www.mext.go.jp/studxstyle/skillup/19.html>

## 授業における生成AIの利活用

こどもたち一人ひとりに最適化された学習を支援し、学力向上及び学習の動機付けの強化を図る観点から、例えば、英作文や英会話の練習における活用など、市内学校の授業における生成AIの利活用推進について検討する。

読書活動  
推進の取組学校まるごと  
図書館

教室や廊下、空きスペース等、学校のいたるところに読書コーナーを設け、いつでも本を手にとれる環境を整備。

ビブリオ  
バトル

参加者が自分のおすすめの本の魅力を紹介し合い、紹介を聞き最も読みたくなった本を投票で決めるイベントを開催。

## アラカルト方式による校外の体験活動

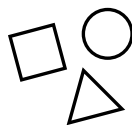
市内の60を超える体験施設(博物館、工場、市議会棟など)から、学校がこどもの意見も聞きつつ、アラカルト方式で行き先を自由に選択

<施設例>



## スー1★GP

現役の大学教授が作成した数学の問題に、中学生が3人1組のチームで挑戦



## みらい探究プロジェクト事業



ロケット発射実験、風力発電実験、ミニハウスづくり等のプログラムにこどもたちで取り組む



## KitaQ Girls Tech事業



理工系を志す女子をメインターゲットに、サイエンスエンターティナーによるショー等を開催



